【小】

【体育科学習指導案様式】　　単元の内容や時間のまとまりを見通して、授業をデザインします。

ここに示している様式は一例であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられます。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしも例示の通りである必要はありません。

第○学年○組　体育科（保健領域）学習指導案

指導者　○○　○○

１　単元名

２　単元の目標

(1)　～することができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識及び技能）

(2)　～することができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　（思考力、判断力、表現力等）

(3)　～することができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　（学びに向かう力、人間性等）

３　単元について

(1)教材観･･･育成する資質や能力を明確に示す。

(2)児童の実態･･･単元に関わる実態調査の結果等を表やグラフで示すとよい。

(3)指導観･･･児童の実態を踏まえ、単元の目標を達成するための具体的な手立てを示す。

 (1) 教材観

 (2) 児童の実態

 (3) 指導観

４　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①単元の評価規準は、「小学習指導要領（平成29年告示）解説体育編」（平成29年７月）文部科学省、及び「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料小学校体育」（令和２年３月） 文部科学省国立教育政策研究所　を参考にして作成する。②③～について、理解したことを言ったり、書いたりしている。（知識）～について、理解したことを言ったり、書いたりしているとともに、～することができる。（技能） | ①～している。  | ①～に自主的に取り組もうとしている。 |

５　指導と評価の計画（４時間）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ねらい・学習活動 | 知 | 思 | 態 | 評価方法 |
| １ | ○（ねらいは、「～できるようにする」と表記）１２ねらいは○で、学習活動を簡単に１、２･･･で示す。「思考・判断・表現」は「学習指導要領解説」の指導事項イの文末を「～している」と表記する。紙面上おさまらない場合は評価する場面の活動等を・（中点）等で示すことも可。３４ | ① |  |  | 観察記述 |
| ２ | ○１２３「主体的に学習に取り組む態度」については、単元全体で評価していくため破線で示している。 |  | ① |  | 観察記述 |
| ３(本時) | ○「知識・技能」、「思考・表現・表現」については、各授業後や各単元終了後にワークシートやノートの記載等からも評価することで信頼性を高めることができる。１２３４ | ② | ② |  | 観察記述（授業後） |
| ４ | ○実習を伴う場合には、技能だけでなく、知識と一体的に評価することを留意する。１２３４「記述」は、学習カードやICTを利用した見取りを含む。「観察」は、ICTを利用した見取りを含む。 | ③ |  | ① | 観察記述 |

６　本時の展開（３／４時間）

(1) 本時の目標

◎は本時に評価するもの。

○は本時に評価せず、授業後に評価するもの。

　　◎　～ができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（思考力、判断力、表現力等）

　　○　～ができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（知識及び技能）

(2) 展 開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習内容・学習活動 | 教師指導・支援（◆評価規準と方法） |
| 導入○分 | １本時の学習課題について、児童に提示する言葉で示す。例：学校でのケガを防ぐポスターを作ります。どのようなキャッチコピーが考えられるだろうか。 | ・ |
| 展開○分 | ２個別の対応が必要な児童への指導の手立てや対応策を示す。３（評価の観点）、【評価方法】を示す。 | 指導と評価の計画と本時の目標（重点）、評価の観点を合わせる。・～の児童に対しては、～することで、～ができるようにする。※児童のつまずきを予想し、具体的な指導の手立てや対応策を記述する。本時の目標，本時の学習課題及び評価規準が合致するようにする。◆～している。 　（思考・判断・表現）　　　　　　　　　　　【観察・記述】 |
| まとめ○分 | ４ |  |

(3) 資　料

　※ワークシートや評価に係る資料等　　　※板書計画等を示してもよい。

◇本時の指導は、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に重点を置いた授業であり、授業中には「思考・判断・表現」の観点のみ評価した。「知識・技能」については、ワークシートの記入状況から授業後に評価することとした。